

平成18年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成18年10月10日

埼玉県病害虫防除所

フタスジヒメハムシ (*Medythia nigrobilineata* (Motschulsky)) によるダイズ被害の発生について

1 発生経過

平成18年9月中旬、埼玉地域のダイズ畑（品種：タチナガハ）においてフタスジヒメハムシの成虫が多発生した。莢及び粒の被害状況を調査したところ成虫による多数の被害（3頭/株、被害莢率63%）が確認された。

本県では、これまで本虫による多被害は確認されていなかった。

2 形態及び発生生態

(1) 形態

成虫は、体長3.2mm内外でやや細長い。頭部は褐色で小さく、体の背面は黄色で上翅に1対の黒色縦条がある。

(2) 発生状況及び生態

日本全土に分布し、暖地では年に2世代を繰り返す。成虫態で畑や畦畔の落葉の下や草の間などに潜んで越冬する。成虫は、暖地では4～5月頃出現し、雌成虫は5～8月頃に茎を伝わって土中に入り、根の近くに産卵する。第一世代の新成虫は7～8月頃、第二世代は9～10月頃に現われる。

1雌の産卵数は200～300で、1週間内外でふ化し幼虫は根粒内に入って食害する。老熟した幼虫は地表近くで蛹室をつくって蛹になり、約10日間で羽化する。

(3) 被害

ア 成虫は、ダイズの葉、子葉、莢、茎などを食害する。

イ 葉はやや不規則な円孔状に食害される。幼苗期に激しく食害されると、初期生育が悪くなる。

ウ 莢の表面を食害する。食害を受けると、子実にも黒斑ができて品質が低下する。

エ 幼虫は根粒内に潜入して内部を食害し、多発時にはダイズの生育が悪くなる。

3 防除対策等

(1) 耕種的防除

ア ダイズの連作を避ける。

イ ダイズ収穫後に畑内の落葉を除去するか、土中にすき込むと翌年の発生が少なくなる。

ウ 冬期における畦畔除草を徹底する。

(2) 薬剤防除

次の薬剤で防除を行う。

防除薬剤（平成18年9月末現在）

薬 剤 名	使 用 時 期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量
ダイシストン粒剤	は種時	1	4 k g / 1 0 a
T D 粒剤	は種時	1	4 k g / 1 0 a
カルホス粉剤	収穫 1 4 日前	2	4 k g / 1 0 a
トレボン粉剤 D L	収穫 1 4 日前	2	4 k g / 1 0 a
トレボン乳剤	収穫 1 4 日前	2	1, 0 0 0 倍
サンリットカルホス粉剤	収穫 1 4 日前	2	3 ~ 4 k g / 1 0 a
アグロスリン乳剤	収穫 7 日前	3	2, 0 0 0 倍
ダントツ H 粉剤 D L	収穫 7 日前	3	3 ~ 4 k g / 1 0 a

※ 農薬容器のラベルの記述事項を確認し散布すること。

※※ 農薬の散布に当たっては飛散に注意してください。

(参考)



写真1 フタスジヒメハムシ成虫



写真2 茎及び莢の食害痕



写真3 莢と粒の被害



写真4 被害粒